JSSD

日本デザイン学会第2支部 教育成果集 2019 日本デザイン学会第2支部 教育成果集 2019

目次

- 4 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン / 工芸科 陶磁専攻・デザイン専攻
- 5 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 空間デザイン学科
- 5 岡山県立大学 デザイン学部 造形デザイン学科・デザイン工学科 ビジュアルデザイン領域・造形デザイン領域
- 8 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科
- 10 九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科
- 10 京都女子大学 家政学部 生活造形学科
- 11 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科
- 11 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類
- 12 札幌市立大学 デザイン学部 人間情報デザインコース
- 13 静岡文化芸術大学 デザイン研究科
- 13 静岡理工科大学 情報学部 情報デザイン学科
- 14 芝浦工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科 生産・プロダクトデザイン系
- 14 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
- 15 拓殖大学 工学部 デザイン学科
- 20 多摩美術大学 大学院美術研究科 共通教育
- 20 千葉大学 工学部・工学研究院 情報コミュニケーション教育研究領域
- 21 帝塚山大学 現代生活学部 居住空間デザイン学科
- 21 東海大学 教養学部 芸術学科デザイン学課程
- 22 東京学芸大学 教育学部
- 22 東洋英和女学院大学 国際社会学部 国際社会学科
- 23 日本大学 芸術学部 デザイン学科
- 23 梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科
- 24 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 24 横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 プロダクトデザインコース

ご挨拶

日本デザイン学会 企画委員会では、支部企画「教育成果集 2019」を発行いたします。

一昨年度、教育成果のアーカイブづくりの端緒として、第2支部に限定して試み的にスタートした「教育成果集2018」ですが、2019年度は応募対象を全国に広げ、支部企画として42作品(先生47名・学生91名)の掲載となりました。日本デザイン学会の会員の多くが大学などの研究・教育機関に所属することからすると、本冊子の掲載数は決して多いとは言えず、また全国から出揃ったというものではありませんが、教育成果としての学生作品を発表する場としていければと考えております。

作品の応募につきまして、本冊子へのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお 願い申し上げます。

JSSD 企画委員会(支部企画)委員長 平松早苗

本冊子の概要

応募の概要としては、

- ●教育機関(大学院、大学、短大、各種専門学校、高校など機関は問いません) で指導された教育成果(卒業・修了研究または制作、あるいはそれらに類する成果) の中から1作品をご推薦
- ●学会正会員1名につき1作品の応募
- ●推薦した教育成果の概要を 400 字以内でご紹介
- ●教育成果の全体像がわかる画像(300dpi)を3点提出
- ●なお、応募に際しては、先生(推薦者)が、所属先の規定を踏まえ、学生(著作者)や撮影者の紹介許可を得て提出のこと.後記「本冊子の著作権に関して」を参照としました。

本冊子の著作権に関して

(投稿者に向けた規定)

■著作権および著作者人格権の取扱について

(作品の著作権および著作人格権)

教育成果集に掲載された作品の著作権は原則として著作者に帰属する。投稿者は教育成果集への投稿にあたり、教育成果集としての掲載またはこの広報を目的とした内容に限り、当学会による著作物の複製、公衆送信、展示、頒布、翻案の無償行使について著作者より許諾を得るものとする。また、上記行使に関して当学会または当学会が指定する第三者に対して著作人格権を行使しないことについても著作者より許諾を得るものとする。

なお、上記について投稿者または著作者と第三者間において生じた紛争に関して当学会はその一切の責任を負わない。

(教育成果集の著作権および著作人格権)

教育成果集に掲載される作品部分以外の著作権はすべて当学会に帰属するものと し、この部分について著作者は当学会に対して著作人格権を行使しないものとする。

■著作者または投稿者の責に帰す事項

教育成果集に投稿した内容に関する著作権または意匠権等の知的財産権について 生じた問題の責任は著作者が負うものとし、当学会はその一切の責任を負わない。

(公開時の規定)

■著作物の権利について

本成果集に掲載された作品の著作権および著作人格権は著作者本人に帰属しま す。著作者本人の許可なく(一部あるいは全部を問わず)これらを転載、複製等、 著作権を侵害する一切の行為を禁じます。

(その他注意事項)

■特許法または意匠法に関する注意事項

教育成果集への掲載は特許(実用新案を含む)または意匠における新規性の喪失行為にあたります。ただし、掲載日から1年以内であれば所定の手続きを経て新規性喪失の例外規定の適用を受けることが出来ます。投稿者は投稿にあたり、著作者に対して特許または意匠の出願予定について確認するとともに、出願を予定している場合は、新規性喪失の例外規定について周知および対処の指導をお願いします。

また、新規性喪失の例外規定の適用を受けようとする場合であっても、第三者が同じ発明について先に出願または公開していた場合、これに対抗することはできませんので、この点についても注意するようお願いします。

教育機関:愛知県立芸術大学 研究室:陶磁専攻 田上研究室 指導教員:田上 知之介 教育成果:2019 年度修了研究 タイトル:"WAVE" Coffee Set

学生氏名:趙 宰瑩 [Cho Jaehyoung](大学院2年)

作者は、普段使いの器が適切な価格で提供され、機能的かつエモーショナルであることが「日常生活における理想的な形態」と定義した。その上で、全てのアイテムに量産可能な陶磁成形技法を用い、自然現象から得たイメージを造形に反映することで、使い手の想像力と感受性を刺激するようなデザインを目指した。

本作品は、取っ手に水の雫の表情を、各容器の底面、ソーサー、蓋の表面に水の波紋を造形として表現することで画一的になりがちな量産陶磁器に独自の世界観をもたらしている。また、アイテムによって異なる波紋の形状は、様々な表情を演出すると共に各容器がスタッキング出来るように配慮されている。伏せ焼による高台を含めた全体の施釉は、それらをぴたりと心地良く収まらせ、テーブルを傷めない。さらに一連の造形は、容器外側の形状が内側に影響してしまう排泥鋳込み成形の欠点を逆手に取り、容器の外側と内側で異なる波紋の表情を創り出すことに成功している。本作品は、デザインから焼成まで全工程に携わる本学陶磁専攻のカリキュラムから生まれた教育成果の一つだといえる。





教育機関:愛知県立芸術大学

研究室:デザイン専攻 本田敬研究室

指導教員:本田 敬

教育成果: 2019 年度修了研究

タイトル:オノマトペから考える CMF®+ αの研究

学生氏名:瀧内彩加(大学院2年)

昨今、CMF は、ユーザーに与える印象面で重要な要素と考えられ、必須のデザイン検討課題となっている。また、「さらさらとした仕上げ」など、擬態語、擬音語からなるオノマトペも感覚的な部分を共有する"もう一つの言語"として実際のデザイン開発現場では長らく使われてきている実情がある。近年では、ユーザーから製品に求められる価値が、物語性や情緒性など、より複雑化して曖昧になってきていることに注目し、それにより応えるデザイン開発がループを設置し、3種の家様似的にデザイン開発がループを設置し、3種の家様でがインを行った。結果として、従来の色や形状検討に加え、開発対象ユーザー像から導き出したオノマトペを追加することで、開発メンバー内でより方向性が共有しやすくなることが実証された。

製品に表出される「デザイン」は多くの記号性を有し、非言語でありながら非常に饒舌なものと言えるが、今回の研究はそこの橋渡しとなる存在としてオノマトペを関与させ、曖昧さの良さを残しながら共有を図る、新たなデザイン開発手法の提案になっている。







教育機関:大阪工業大学

研究室:プロダクトデザイン研究室

指導教員:赤井愛 教育成果:卒業研究

タイトル:重なり合うガラスと残響 一グラスハープの

原理を用いた多音階楽器-

学生氏名:田中嶺至(学部4年)

グラスハープはガラス器の縁を指で擦ることにより音を奏でる楽器である。1音につき1つのグラスを必要とするため、本格的な音楽演奏のためには多くのグラスが必要になり、同時に複数音を鳴らす演奏、速いフレーズの演奏等は限界がある。本研究では、大きさの異なる7つのガラス製ボウルを重ね、ガラス棒で繋いだ新たな楽器「マルチレイヤードグラスハープ」の制作により、①1台の楽器で複数の音階を奏でること、②従来のグラスハープにはない多彩な奏法が可能であること、③持ち運びが容易であること、の3つの要件を実現した。この作品は従来のグラスハープにはない余韻に富んだ残響が得られるほか、ガラス棒の上部を持ち、グラスハープ全体の角度を変えて音の高低を変化させたり、揺らすことでビブラートを生じさせたりすることが可能である。

また、音響解析の結果、マルチレイヤードグラス ハープはボウルが空の状態と水を注いだ時とで倍音 構造が大きく変化することが明らかになり、同じ奏 法でも水の有無により異なる音色を愉しむことがで きる楽器であると言える。



教育機関:岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科

研究室:ビジュアルデザイン領域

指導教員:山下万吉、山下明美(非会員)

教育成果:卒業研究 タイトル: MY SKIN IS・・・ 学生氏名:山内 詩織(学部4年)

研究テーマは「多様性を表現するビジュアルデザインについて」。作者は海の生物から多様性を学び、次に人間にとっての多様性を考察するうちに、人間の第一の皮膚である"肌"と第二の皮膚といわれる"衣服"でその多様性を表現する着想を得た。

具体的には、木材や繊維などをはじめとした 100 の素材を使って、国籍、文化、年齢が違う 100 人の人物イラストレーションを描き、ポートレート集 ($202p,W277 \times H500 \times D38mm$) としてまとめた。さらに、イラスト 100 点の中から素材の質感が違う 5 点を選出し、実際の人間の大きさを想定したイラスト (アクリル画,キャンバス $W1000 \times H1800 \times D25mm \times 5$ 点)を制作した。

完成した 100 人のイラストは、通常は色の違いはあってもほぼ均質である人間の肌感をあえて様々な素材で表現することで、その人間の本質の多様性を物語る。ページをめくる度に多様なサウンドが聴こえ、一緒に踊り出したくなるような楽しさも味わえる一冊となっている。





教育機関:岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科

研究室:ビジュアルデザイン領域

指導教員:西田 麻希子 教育成果:卒業研究

タイトル:昆虫の構造、魅力を伝えるクラフトキットの

研究

学生氏名:和田晴希(学部4年)

本研究は小学生を対象とした昆虫学習に適した教材の開発に取り組んだもので、作品は、昆虫の体のつくりを学ぶための工作キットと生態などについて学べる冊子がセットになった「オオスズメバチの昆虫図鑑」「オオカマキリの昆虫図鑑」「ノコギリクワガタの昆虫図鑑」のシリーズ3点である。

昆虫は形態や色彩が多様なことや、小型で扱いやすく飼育が容易なこと、自然環境のよい指標になるなどの理由から、明治5年の学制制定以来、理科教育の優れた教材として扱われてきた。しかし、授業を終えた後であっても、小学生の昆虫の生態や体のつくりなどに関する知識や理解は不十分であることが指摘されている。そこで、文献調査及び図鑑や教育キットなどの既存事例の調査分析から、昆虫学習に求められている内容とその学習に適していると考えられる教材の要件を導き出した上で試作品を制作し、それを用いて小学生対象のワークショップとヒヤリング調査を実施した。その結果を受けて改善を行い、研究成果としての作品を提案した。







教育機関:岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科

研究室:ビジュアルデザイン領域

指導教員:野宮謙吾 教育成果:卒業研究

タイトル:笠岡市立図書館サインデザイン

学生氏名:和田ほの花(学部4年)

本研究は、開館 40 周年を迎えた笠岡市立図書館のサイン環境について、グラフィックデザインの視座より改善を図ることを目的としている。

調査段階では、複数回の現地調査及びスタッフの 方とのディスカッションを行い、解決すべき具体的 な課題とイメージの方針を明らかにした。

そしてその結果に基づき、視認性と審美性に優れた独自のピクトグラムを23種デザインし、図書分類表示と案内サインに展開した。ピクトグラムは、視認性を重視した黒の線画によるシンプルなデザインとし、柔らかく親しみやすい印象を持たせるため、角丸処理を施している。また、サイン展開においては、10種の大分類各々の内容に基づくイメージカラーを設定し、判別性とカラフルで楽しい印象を両立させている。

本作品は実際に笠岡市立図書館に設置、運用されている。地域貢献活動として笠岡市からの評価も高く、教育委員長から感謝状を授与、その様子は地元メディアにて紹介された。



5 冊

教育機関:岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科

研究室:造形デザイン領域

指導教員:吉原 直彦、島田 清徳(非会員)

教育成果:卒業研究 タイトル:Shijima

学生氏名: 栗本 真衣 (学部 4 年)

日本独自の和の文化に触れる機会が減少するなか、本研究は、和風建築から着想を得て「ひとの心が和むテキスタイル」を提案している。様々な事例を研究し、光を取り入れつつ空間を仕切る「障子」の特徴に、和を感じさせるテキスタイルならではのインスタレーションの可能性を見いだした。

作品は、薄いポリエステルの布に約6,000本のヒノキ材が幾何学模様を描くように配置されているが、その木材は互いに連結されていないことから、柔軟な布の性質を残している。

内と外を隔てながらも光を通し、布の向こう側の 存在が微かに見てとれる様相は、ひとに何かを想起 させてくれる魅力的な空間表現となっており、独創 的で新たな世界観を呈示している。





教育機関:岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科

研究室:造形デザイン領域

指導教員:南川茂樹、真世土マウ(非会員)

教育成果:卒業研究

タイトル:Ceratex / テキスタイル技法を用いたセラ

ミック作品の研究 学生氏名:寺内 聖子(学部 4 年)

本研究は、セラミック素材を用いてテキスタイル 技法によって生まれる新しい造形表現を追求することを目的としている。

テキスタイル技法のひとつのである織の技法を用いてベースとなる造形を形成し、それに色のついた泥漿をしみ込ませ焼成する新たな技法を生み出した。その技法によって生まれた造形は、綿や麻、あるいはアクリルなどの色糸を織り込んだ柔らかいテキスタイル作品のように見えるが、実際は硬質な質感をもったセラミック作品である。従来からあるテキスタイルの素材とセラミック素材という異なる二つの素材についての技法実験を複数回繰り返し、それらを組み合わせて焼成することによりそれぞれの特徴や技法を生かした新しい素材感を持った造形を生み出した。試行錯誤を重ねたことで、革新的な現代セラミック表現が生まれる可能性をもつ魅力的な作品となった。





教育機関:岡山県立大学 デザイン学部 デザイン工学科

研究室:三原鉄平研究室 指導教員:三原 鉄平 教育成果:2019 年度卒業研究

教育成業・2019 年度平業研究 タイトル:「吉備津土人形らくがん」 学生氏名:大部 晴夏(学部4年)

日本各地の郷土玩具は、庶民の風俗や信仰心などが反映された貴重な文化遺産であるが、制作者の高齢化や後継者の不在によって、既に廃絶してしまったものも少なくない。岡山の郷土玩具「吉備津土人形」も過去に二度廃絶し、現在は一人の継承者が勤めをしながら可能な範囲で制作を行っている。そのため愛好家の間では著明な郷土玩具ではあるものの、地域の人々にはほとんど知られていない。

本研究は、伝統継承と認知度向上を狙いとして、 岡山市吉備津地域の郷土玩具「吉備津土人形」を題材とした土産品のデザインを検討したものであり、 その成果として9種の落雁と3種のパッケージデザインを制作した。制作においては継承者である東氏のご協力のもと、手跡の残る素朴な型物という吉備津土人形の特徴を再現しつつ、現物とは異なるものとして認識できることに留意しながら検討を行った。パッケージデザインは、家族の幸せを願い家中に祀って信仰するという、吉備津土人形本来の在り方を再現することができ、その由来や加護についても説明がなされている。







吉備津土人形

教育機関:川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科

研究室:ビジュアルコミュニケーションデザイン研究室

指導教員: 岩藤 百香

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:長期入院児のためのベッドで遊べるおもちゃ

の提案

学生氏名:熊谷美樹(学部4年)

入院は、慣れない環境で過ごす子どもにとって大きなストレスとなる。本研究では、ストレス緩和に有効とされる遊びに着目し、特にベッドから動けず行動が制限される子どもを対象としておもちゃを制作した。

制作の過程では、実際に病棟で子どもと接する看護師から聞き取り調査を行い、(1) 仰向けの姿勢を保ち寝ながら遊べること (2) 気分や好みに応じて遊びが選べること (3) 設置や撤収が容易であること (4) 子どもの状態が観察でき点滴などの邪魔にならないこと、を条件として半円型のテントを制作した。

「ベッドの上の秘密基地"トンネルン"」と名付けたテントは、子どもの視界を180度覆うことで病室にいながら自分だけの空間を演出し、テント布を貼り変えることで人形遊び・ボール投げ・お絵描き・タブレットを使った映画館ごっこ・親子で楽しむもぐらたたき・迷路ゲームの6種類の遊びができる仕様とした。



教育機関:川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科

研究室:ホスピタルデザイン研究室

指導教員:植松陽一

教育成果:2019 年度卒業研究 タイトル:歯っぴー歯ろういんフェス 学生氏名:大月 優里(学部 4 年)

歯科医院は怖いという印象を受けやすい。しかし、それは歯科の正しい知識と情報を得る機会が少ないため、多くの人にとって先入観となっているためである。このことは特に子どもに多く見られる。本制作は、「歯科医院」に対する正しい知識と情報を伝えることを目的としたワークショップ形式の作品である。まず子どもを対象とした歯科に関する調査を行い、実際に歯科医院内で歯科医の体験と、ものづくりのワークショップを実施した。歯科医の体験では、治療に使う器具の説明と扱い方を学び、ものづくりのワークショップでは子どもが楽しめるようにハロウィーンをテーマとしたランタン作りを行った。

このように、子どもに歯科医院の中で歯科医の体験と、ハロウィーンという子どもが主役となるようなワークショップを実施することで、イベントを通じて歯科の正しい知識と興味をもってもらえるような取り組みを行った。



教育機関:川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 研究室:ビジュアルコミュニケーションデザイン研究室

指導教員:中村 俊介

教育成果:課外活動(行政機関との協働開発)

タイトル:災害対応ピクトグラム

学生氏名:河本 花波・熊谷 美樹・日笠 捺香・平松 知宏 (学部4年)、宮本のどか・山本佳歩(学部3年)

NBC 災害(核・生物・化学物質による特殊災害)時に円滑に避難誘導を促すためのピクトグラム開発を、2016年度より岡山市消防局と協働で取り組んでいる。2017年度に制作したデザインモデルでは、独自色の強いピクトグラムと手作りでのモデル制作であったことから、2018年度には今後の各地への導入を見据え、JIS 規格に準じたピクトグラムへと改善を行うとともに、災害現場でも耐えうるモデル媒体の選定を行った。消防訓練での検証とアンケート調査を行い、有効性の確認と一定の評価を得る結果となった。

現在、23 府県 68 の消防局・本部から使用申請が届いており(2020 年 3 月末現在)、その他にも病院や福祉施設、大型商業施設からも問い合わせをいただき、試験的に導入され、消防訓練等で使用されている。また、「歩いてこちらへ」のピクトグラムに関しては、岡山市内の全消防車両に配備されたほか、岡山市内約200 校の教育機関に配布予定となっており、大きく広がりを見せている。

今後は NBC 災害時のみだけではなく、多方面への災害に対応できるピクトグラムの制作も計画している。



教育機関:九州産業大学 建築都市工学部

研究室:住居・インテリア学科 地域貢献実践ゼミナール

指導教員:諫見泰彦

教育成果:科目「建築都市入門」プロジェクト型教育

タイトル:積み木でライトアップのワークショップ 学生氏名:池浦 成美・石原 真依・木村 紗矢香・ 林田光咲・火山奈緒子・福山采奈・矢野詩織・

山口 未夢・山下 桃乃(学部 1 年)

筆者らは積み木と LED を使い、「ライトアップの良否 は光源・反射・遮蔽のバランスによる」との知見を小学 生が学ぶワークショップを企画し、山口県の長門おもちゃ 美術館において実践した。LED を中心に様々な形の積み 木を並べたり重ねたりして、積み木を照らす光や積み木 どうしの隙間から漏れる光を小学生らと鑑賞できた。

光源に LED150 個(ヤザワ製、プッシュライト3灯、 昼白とカラーセロファンを内蔵した赤・青・黄・緑の5 色×30個)、反射材と遮蔽材に積み木2.000個(ブリオ製、 ブナ材白木、形状7種類、50個×40セット)を使用した。

積み木の積み方は無限である。崩れやすい欠点はあ るが多様な形を容易に作れる。ワークショップでは小 学生がライトアップを鑑賞して、「きれいだね」と思 うに留まらず、なぜきれいなのか、どうすればきれい なライトアップとなるかを自発的・体験的に考えて制 作し、「きれいでしょう」と他者に鑑賞させられる機 会を作ることができた。筆者らは小学生がデザインの 楽しさを知り、将来ライトアップでまちづくりに貢献 する人財に育ってほしいと願っている。





教育機関:京都女子大学

研究室:生活造形学科 デザイン人間工学研究室

指導教員:山岡 俊樹

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:キャラクターマーケティングにおけるキャラ

クター制作方法についての検討

学生氏名:片桐菜絵(学部4年)

本研究は、人々の心を掴むキャラクター制作方法 の構築とそれに基づく検証事例を提案したものであ る. キャラクターの与える印象, それの魅力的な見 た目, 及びキャラクターの持つストーリー・性格, の3つの視点からキャラクターの魅力要因を考察し. 経済効果を高めるためのキャラクター制作方法を検 討した. 調査1:キャラクターのどの要素がどのよ うな印象を与えるのか、調査2:キャラクターを魅 力的に見せる視覚的要素の検討、調査3:見た目以 外の要素がキャラクターの魅力にどのように影響を あたえているのか、の3つの調査を行った.

以上より、キャラクターマーケティングにおける キャラクター制作手順を考案した.手順はシステム 構築方法に基づき、①目的設定、②コンセプト設定、 ③ターゲット設定, ④与えたい印象の検討, ⑤消費 者層選定,⑥肉付け,⑦キャラクター完成,である. 提案したキャラクター制作方法を用いて,京都女子 大学家政学部生活造形学科山岡研究室のマスコット キャラクターの制作を行った.

キャラクター制作手順

①目的設定 Û

②コンセプト設定 Ų

③ターゲット設定

④与えたい印象の検討 16項目の印象から選ぶ

ŹĻ

⑤消費者層選定 Л

⑥肉付け Ţ

⑦キャラクター完成

キャラクターを制作する目的

与えたいイメージを固める

3つのユーザタイプを選択する

3 ユーザタイプからキャラクタ ーのストーリー・性格を決める

モチーフ・設定等の肉付けを行う



完成キャラクター

教育機関:共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科

研究室:グラフィックデザイン研究室

指導教員:田中 裕子

教育成果: 2019 年度卒業制作

タイトル:Re:PAPER

学生氏名:間嶋みのり(学部4年)

当作品は、自然との対話や循環をイメージした手漉き紙と、それを素材に用いた製品の提案である。制作者の学生は、生花店で切り落とされた茎や、料理の際に廃棄される果物の皮、野菜の切り落し部分など、これまで不要とされた素材を原料に、手漉き紙を制作した。ブランド名「Re:PAPER」には、これまで廃棄されてしまっていた植物の恵みを、手漉きの紙にしてお返し(reply=返信)するという意図を込めている。

手漉き紙は、ヒマワリ、ユリなど多種にわたる花 卉の茎や、トウモロコシ、レモンの皮といった食物 に含まれる繊維に着目し、優しい肌触りや自然の色 合いを通じて植物の恵みを追体感できるものに仕上 げた。また、製品は便箋や名刺などのペーパーアイ テムや雑貨類へと展開した。資源の有効利用や、廃 棄物といった社会問題に向き合いながら、一枚一枚 手仕事で丁寧に作るプロセスをウェブ上で開示する ことで、ストーリーや共感を生み出し、ブランド構 築を行なっている。





教育機関:駒沢女子大学人間総合学群住空間デザイン学類

研究室:榎本文夫研究室 指導教員:榎本 文夫

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル: Bamboo Chair ーアップサイクルによる竹刀

の再利用ー

学生氏名:石川 実沙紀(学部4年)

廃棄されたゴミをリサイクルする際、元々のゴミが持っていた価値を高めるリサイクルのことを「アップサイクル」というが、この作品は学生がそのアップサイクルに取り組んだ研究成果である。

榎本研究室は、基本的に自然素材である木や竹を使ったモノづくりやデザインを専門とするが、この学生は高校時代に剣道部員であったことで激しい練習で多くの竹刀がヒビ割れ、そのまま廃棄されることを知っており、今回はその廃棄される竹刀で何か新しい価値を生み出せないかと、竹の素材特性や竹刀の構造を生かし、イスをデザインし実際に自分の手で制作することで新しい価値の発見に成功している。

竹の持つ弾性は、座面や背のクッション性として利用し、熱によって曲げられる可塑性は背のカーブに生かされている。

背柱に、竹刀の特徴である先端や握り部分の革や それらを繋ぐテトロン糸を残しそこに彼女の記憶を 留めようと試みたが、学内での発表の際に評価が分 かれた部分ではある。



教育機関:札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース

研究室:インターラクションデザイン研究室

指導教員: 若林 尚樹

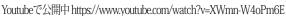
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:スマートフォン画面における効果的なアニ

メーション表現の提案

学生氏名: 吉岡優(学部4年)

近年、ネット動画をスマホで視聴する機会が増え続 けている。さらに視聴するだけでなく、誰でも簡単に 映像を作ることや、発信することができるようになっ た。また、スマホで視聴する動画はこれまでのワイド 比率 (16:9) などにこだわらず、コンテンツに合わせて 画面比率や縦横の画面配置を自由に設定することがで きるようになった。しかし横画面を前提としたこれま での映像文法に基づいたフレーミングやカメラワーク をスマホの縦画面に合わせそのまま用いることは難し い。このことからこれまでの映像文法を見直し、縦画 面に合わせた映像表現方法を考えていく必要がある。 今回は横画面の映像文法の調査をもとに、縦画面と横 画面におけるフレーミングとカメラワークについて評 価実験を行い縦画面のための手法をまとめ、アニメー ション作品「ボクとゾウ」を制作した。制作した作品 はネット上で公開するとともに札幌市立円山動物園に ある動物園センター情報ホールでも公開した。今後も 縦画面のための映像文法の研究をすすめることで、そ れらを生かしたより魅力的な映像作品が期待される。





教育機関:札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース

研究室:デザインプロセス 研究室

指導教員:安齋 利典

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル: 癒しのためのテラリウムの提案―植物と自己

庭遊びの融合によるストレス緩和の研究一

学生氏名:川口伽椰(学部4年)

本研究では、ストレス社会におけるストレス解消法の提案を目的とした。ストレス緩和に効果があり生活空間に取り込むことのできる植物と、それに親和性がある箱庭遊びに着目した研究を行い、デザイン提案に結びつけた。

近年の生活スタイルやユーザー視点での植物に対する問題点、植物の性質等から使用する植物と大まかな機能・形状を導き出した。

また、ストレス緩和効果について2つの実験を行い、第一実験では植物と箱庭遊びの存在によるストレス変化の差を、第二実験では植物の成長と箱庭遊びのストレスの変化を調査した。プロトタイプを製作し、組み立てから植物の育成のストレス変化を評価した。

結論として植物の存在がストレスを減少させたことが分かったものの、箱庭遊びの与える影響については結果を得られなかった。しかし、被験者の箱庭の表現や楽しかったという感想から、本研究の提案には好意的な印象が持たれたと考える。







教育機関:静岡文化芸術大学 デザイン研究科

研究室:伊豆研究室 指導教員:伊豆 裕一

教育成果:2019年度修士研究・制作

タイトル:高齢者向けレクリェーションゲーム

学生氏名:程宏謨(大学院2年)

高齢化社会と少子化や核家族化などが相まって、高齢者の社会からの孤立が問題となっている。これらの高齢者にとって他者との交流を図ることで、共に楽しさや喜びを見出すことのできるレクリェーション活動の充実は欠かせない。高齢者の脳と体の健康を維持し、コミュニケーションの向上に貢献するレクリェーションゲームの開発を目的に研究を進めた。

老人福祉センターの活動に参加し、高齢者たちと共にアクティビティを行うなかで、手指を動かすことで脳を活性化すること、グループで協力してゴールを目指すことでコミュニケーションが生まれることなどを確認した。複数の試作モデルによりプレイテストを実施し、観察・ヒアリング結果を反映して、最終的にボールをゴールに運ぶチームとコース上に障害物を設置するチームに分かれて競うゲームを制作した。腕を使う運動により身体機能を回復する効果が期待でき、チームワークが求められるルールにより参加者のコミュニケーションも深まった。本ゲームは今後も浜松市老人福祉センターのディケアーサービスにて活用される。





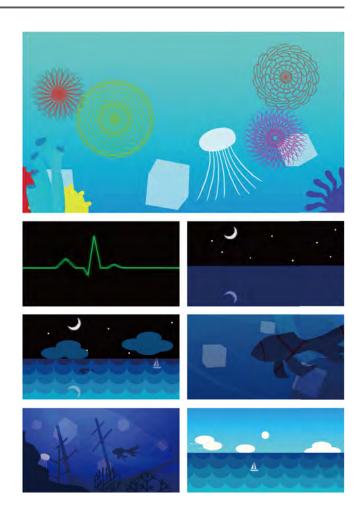
教育機関:静岡理工科大学 研究室:藝術工学研究室 指導教員:松田 崇

教育成果: 2019 年度卒業制作

タイトル: SEABED

学生氏名:落合ダイゴ(学部4年)

本作品は、「死」と「海」をコンセプトにした映像 作品である。幼い頃からホラーアドベンチャーゲー ム「Ib (イヴ)」や鈴木光司のホラー短編集「仄暗い 水の底から(ほのぐらいみずのそこから)」などに親 しみ、「死」に関連する要素に強い関心を抱いていた ことから、「死」というテーマをベースに映像作品の 制作を決める。当初は、一般的な「死」というイメー ジに囚われてしまい、自分自身が関心を寄せる「死」 というモノを的確に捉えることが出来なかった。そ のため、まずは自身に内包する「死」のイメージを 明確にする作業から始める。そこから、「死」とは「曖 昧で広い景色」であるという認識に辿り着く。しか し、これだけでは自身の中にある「死」のイメージ を映像表現にするには不十分であったため、「死」の 解釈とは別の要素を探すことになる。そのような中、 水族館でのクラゲとの遭遇により「海」というもう 一つの要素を加えることで、独自の「死」というテー マを映像で表現することに成功した。



日本デザイン学会支部企画 教育成果集 2019

教育機関:芝浦工業大学

研究室:エモーショナルデザイン研究室

指導教員:橋田 規子

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:大学内のリラックススペースに適したソファ

の研究

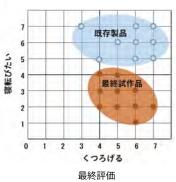
学生氏名: 宇野津 甘美 (学部 4 年)

ソファに座ることは、精神的、身体的に、リラッ クス効果があり、近年ではクリエイティブな業種の ワークスペースにも置かれるようになった。しかし、 実際に大学のフリースペースに置いてみたところ、 だらしない使い方になり、設置に反対する声があがっ た。この研究ではくつろげるが、だらしない姿勢に ならないソファの設計指標を導き出すことを目的と した。はじめに、「だらしなく見える姿勢」を行動観 察とアンケートによって求め「寝ころぶ姿勢」と定 義した。次に、寝転ぶ姿勢に関連する構成要素として、 クッションの硬さ、座面の高さと奥行き、座面の角 度を段階的に変化させ「くつろげる」「寝ころびたい」 「利用したい」の3項目で評価する実験をおこなった。 最終評価では「くつろげる」が「寝転ばない」とい う理想的な評価になる設計指標を導くことが出来た。 結果としては①クッションの硬さは硬めで、座面よ り背もたれの方が硬く、②座面の高さは 340 mm程 度で、座面の奥行きは 400 ~ 500 mm、③座面の 角度は水平面から 10 度、である。なお、背もたれ は軽休息と軽作業の両用に適した105度とした。





実験III 座面の角度 <u>産産角度(水平面から)</u> 0° 5° 10° 15° (上) 10° 5° 0° 8 340 ① ② ③ ④



教育機関:女子美術大学

研究室:デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

指導教員:下田倫子、小山憲太郎(非会員)

教育成果: 2018・2019 年度 都市景観 x 照明デザイン

タイトル:都市のオープンスペースデザイン

学生氏名:伊東由華・朴嘉暎・リュウシブン (2018 年度学部3年)、ウキブ・竹元磨理華・岡藤爽香・半村さよ・

横井梨菜・薛イェウン (2019年度学部3年)

本学に程近い JR 相模原駅の駅前広場や街路空間等の都市のオープンスペースに、コミュニティの育成や観光振興を目指した、人の居場所を提案した。現地調査から、人間活動の変化や景観の変動要因に着目し、昼夜の人と場の関わり方の研究を進めた。

既存並木の眺望を楽しむ歩道橋、再訪を促す街路 沿いのイベント広場、相模原らしさを創出する駅前 広場の賑わいのある環境をデザインした。相模原市 役所商業観光課(現:産業支援課)と建築・住まい 政策課のご協力のもと、説明会や講評会を実施。伝 達方法の工夫やフィードバックは、学生のプレゼン テーション能力の向上に有効であった。

前年度には、横浜市の象の鼻パークを対象として 提案を行い、2019年6月に開催された象の鼻テラス開館10周年記念展「フューチャースケープ・プロジェクト」にて、作品展示行った。学生たちが、自らの提案した場所で来場者から直接コメントを得たことは、実社会に繋がる学びの機会となった。







教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科 研究室:感性インタラクション研究室

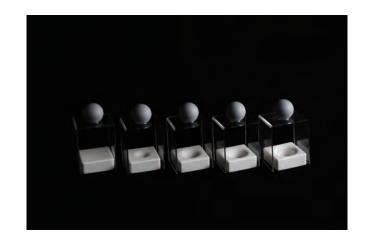
指導教員:岡崎章

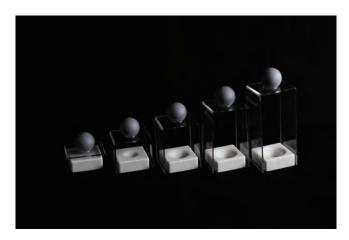
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:心理的ストレスのレベル評価ツール

学生氏名:力丸浩子(学部4年)

Well-being やメンタルヘルスへの関心が高まる 中、日本では労働者対象のストレスチェック制度が 2015年に施行された。既存の職業性ストレス簡易 調査票において、特に効果的な手法の普及、ツール 開発が課題として挙げられているが、チェックシー トが多くを占めている。そこで、本研究では、心理 的ストレスの評価法の模索を試み、評価ツールに適 したデザイン構成を明らかにすることを目的とした。 ツールは、A: 重さと凹み、B: 距離と凹みによって構 成した二つを提案し質的評価を行なった。その結果、 第一印象での興味に差は無かったが、心的負荷の評 価体験後では A に優位性が認められた。使用実験で は、A: 慢性的 - B: 短期的、A: 個人の問題 - B: 外的要 因、によるストレスの評価に適していることが明ら かになった。これらから構成方法を使い分けること で目的とする心理的ストレスを精度高く評価できる 可能性が示唆された。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科 研究室:コミュニティデザイン研究室

指導教員:工藤 芳彰

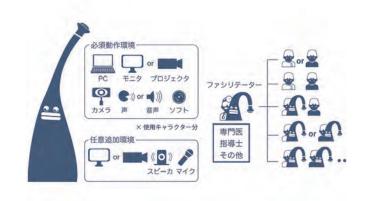
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:キャラクターリアル表示システムを用いた糖

尿病教室のデザイン

学生氏名:加藤岳大(学部4年)

糖尿病有病者の大部分を占める「2型糖尿病」は 生活習慣病の一種であり、生活改善によって予防が 可能である。そのため、専門医や療養指導士らが「糖 尿病教室」をとおして糖尿病及び合併症の予防促進 に務めている。しかし、糖尿病予備軍の割合は微増 を続けており、さらなる取り組みが求められる。以 上を踏まえ、本研究は糖尿病教室の効果を高めるシ ステムデザインに取り組んだ。まず、同システムに 用いるキャラクターとして、「膵臓」と「インスリン 注射」をモチーフに、3つの効果アニメーションを 有する「中州リン」をデザインした。そして、同キャ ラクターの使用を前提に、指導側と受講側のコミュ ニケーションを刺激するキャラクターリアルタイム 表示システムを構築した。糖尿病理解度を確認する テストを同システムの有無で比較検証した結果、シ ステム有りの方が正答率が高く、「中州リン」および 同システムが受講者の理解度向上に効果があること を確認した。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科

研究室:視覚デザイン研究室

指導教員:小出昌二

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:アウェアネスリボンの認知度向上を促す提案

学生氏名:神城留衣(学部4年)

アウェアネスリボンはどのリボンもそれぞれの活 動を象徴して人の助けになるものであり、認知する ことで支援に繋がる。現状の認知度は低いものだが、 インタビュー及びアンケート調査によりリボン自体 を知る機会が少ないことがボランティアや寄付など の支援に繋がらず、知っている方も日常生活であま りアピールしない為に認知度が低いのだと分かった。 そこで日常的に、かつ好みに関係ないつり革とスー パーにある買い物かごでリボン活動についてアピー ルすることで認知が広がると提案した。どちらも男 女問わず触れるものであり、よりリボンについて印 象づけることが出来る。つり革はリボン団体から提 供されたリボンバッチの形を参考に、リボンを際立 たせるよう作成した。買い物かごは側面の網目模様 をリボンの模様に変えて、尚且つ各リボンのメッセー ジを添えることでさらに認識してもらえるようにし た。スーパーにて数個導入することで特別感を持た せ、認知度向上を促した。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科

研究室:室内設計研究室 指導教員:白石 照美

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:タケ材と布材を用いたやわらかい家具

学生氏名:遠藤和磨(学部4年)

近年、度重なる震災を背景に室内防災の考え方が 必要とされている。本研究では、タケ材と布材の特 性を活かし、特に家具転倒時のダメージを軽減する 家具の構造を見出すことを目的とし、タケ材の弾性 を活かしたフレームとカゴ状の収納パーツを組み合 わせた4段構成の収納家具を提案した。制作した円 筒形と角形の2種のシェルフは、いずれも垂直方向 の支持材として厚さ8mmのタケ集成材、上部には 薄く軽量なタケ薄板合板や布材を、土台には比重が 重いタケ集成材を使用している。水平方向には垂直 支持材を挟む形でタケ薄板合板を2重に配し、外周 に対して弾性を持たせることで転倒・衝突時のダメー ジ軽減を図っている。これらのシェルフに対して振 動実験を行った結果、円筒形では震度減衰効果が確 認できたが角形では減衰は見られなかった。また重 心計測を行った結果、いずれも1段目の中央あたり に重心があり重心が低い構造であることを確認でき た。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科

研究室:シビックデザイン研究室

指導教員:永見豊

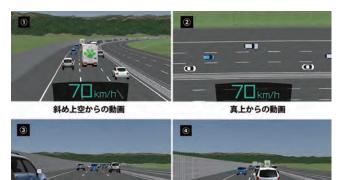
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:トラフィックカウンタデータを用いた交通状

況イメージの制作

学生氏名:堀江晃平(学部4年)

交通情報はトラフィックカウンタで計測した走行 速度(km/h)、通過台数(台/5分)、大型車混合率(%) を用いて赤や黄色などの色により提供している。本 研究では、これらの数値データから交通流をイメー ジしやすくなる動画を制作した。交通流のアングル は①斜め上空、②真上、③路上、④ドライバーの動 的視点を比較評価し、①斜め上空に設定した。動画 提供にあたり、トラフィックカウンタの値からその 都度、動画を制作するのは困難なため、類似したイ メージの交通状況をグループ化し、代表的なイメー ジの動画を作成した。実際のトラフィックカウンタ のデータ、走行速度と通過台数から代表的な交通流 として18動画を制作し、一対比較による類似度分 析とクラスター分析により8グループに分類するこ とができた。評価実験を通して交通流のイメージの 違いは、高速域では通過台数、中速域では速度と通 過台数、低速域では走行速度の違いから変化を感じ ることがわかった。



ドライバー視点(移動)からの動画

70 km/h

ドライバー視点(固定)からの動画







教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科研究室:プロダクトデザイン研究室 指導教員:ハイメ・アルバレス

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:災害発生から避難生活にかけて継続的に使用

可能な担架のデザイン提案 学生氏名:芝澤匠(学部4年)

いつ起きてもおかしくないとされている首都直下 型地震や毎年のように起きる自然災害に対して何ら かの対策が必要だと考えた。また、災害発生後の避 難生活を過ごすうえで、何が大切で何が必要なのか をしっかりと再確認しなければならないと考えた。 そこで本研究では、自然災害の際に役に立ち、少し でも避難生活を送る方たちの不安と負担を軽減でき るプロダクトデザインの提案を目的とし、災害発生 から避難生活にかけて継続的に使用可能な担架のデ ザインを提案した。担架の機能は3つある。まず一 つ目に災害発生前の機能としてインフォメーション ボードの役割がある。これは3枚のボードで構成さ れ、町の中や公園などに常時設置する。二つ目に災 害発生直後には、インフォメーションボードを簡単 に取り外すことができ、3台の担架として使用する ことができる。三つ目に、使われなくなった担架を 台車に変形させることで、救援物資の運搬や避難生 活などで継続的に使用することができる。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科 研究室:メディアクリエイション研究室

指導教員:大島 直樹

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:安心感を与える抱き付き要素の検討

学生氏名:納見明沙子(学部4年)

本研究の目的は、座位状態において安心感を与え る抱き付き型の形と大きさの検討をすることである。 練習用モデルを含めた4つの抱き付き型モデルを制 作し、それらモデルの比較検討実験を行った。各モデ ルを抱く時間は2分間とし、その間の安心感の時間的 変化を評価させながら、抱き付き後に口頭質問、実験 後にアンケートを実施した。実験結果から安心感を 与える抱き付き要素は(1)体との接地面が広いこと (2) 膝に乗せた時に安定感があること (3) 抱き付き時 の手を保持しやすいくびれがあること、の3点が分 かった。(1) が安心感を与え、(2)(3) がその安心感を 損なわせないために必要だと考えられる。男女別の 結果では男女の体型の違いが結果に影響した。女性 だけの結果では体格ごとに評価の高いモデルが分か れた。また男性は体格の良い人に抱き付く安心感を 再現したモデルの評価が低く、男女で抱き付き型に 求めるものが違うことが示唆された。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科 研究室:メディア情報デザイン研究室

指導教員:崔 ホンソク

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:アプリ弱者のためのユーザインターフェース

の提案

学生氏名:半田匠(学部4年)

本研究は、老眼や白内障を患った高齢者、又は色 覚障害者などの、スマートフォンのアプリケーショ ンを使う上で視覚的に不便を感じる人を「アプリ弱 者」と定義し、アプリ弱者でも見易い UI の制作とそ の評価を目的とする。制作するユーザインターフェー スは初期カスタマイズ機能(以下 ICF とする)と呼び、 アプリの初回起動の際に、背景色、文字やボタンの 大きさ、テーマカラーと強調色の組み合わせの順番 でユーザが設定する。実験では被験者が選んだ設定 をアプリに適用、使用してもらった。被験者は学生 と高齢者合わせて28名であり、高齢者以外には色 弱模擬フィルタを装着させ、疑似的な色覚障害者と した。高齢者を対象にした実験データは、実験方法 に改善が認められたため取り除いた。色覚障害にお いては、ICF 無しの実験よりも ICF 有りの実験の方 が22%短い時間で終わったことから、本研究で提案 する ICF が色覚障害をもつ人に対して効果的である ことが明らかになった。

Initial Customized Function



色覚障害者 (D型) の視点



教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科

研究室:ユーザエクスペリエンスデザイン研究室

指導教員:森岡 大輔

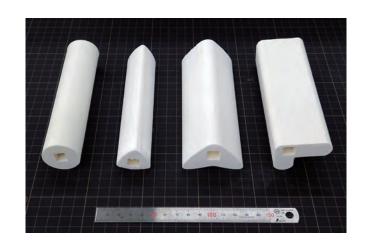
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:階段用手すり形状の違いによる握りやすさの

分析に関する研究

学生氏名:飯泉敦哉(学部4年)

階段昇降動作では身体重心の三次元移動を伴うた め、バランスを崩し転倒する恐れがある。2000年 の建築基準法改正で階段への手すり設置が義務付け られて以降、転倒・転落事故件数は大きく減少した がその効果は一時的である。また転落事故の根本的 な解決には至っておらず、何度か法改正が実施され ている。本研究の目的は、新たな形状をした階段用 手すりを開発することで、把持の向上と事故の低減 を目指した。現状の手すり形状を含む4種類(丸形、 三角形、楔形、L字型)の手すりを製作し、把持実 験および階段昇降実験を実施し、手すりの握りやす さの官能評価とその分析を行った。その結果、把持 実験では手すりの外周と握りやすさで相関関係が示 唆された。また、階段昇降実験で最も握りやすい手 すりはL字型であることが示された。この結果から、 手すり形状にエッジをつけることで DIP 関節や PIP 関節が引っかかりやすく、握りやすい形状になった のではないかと考える。





教育機関:拓殖大学工学部デザイン学科

研究室:用品設計研究室 指導教員:阿部 眞理

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:シート状針葉樹材による家具装飾法の開発と

イスへの応用

学生氏名:菊池智裕(学部4年)

スギ、ヒノキは節やキズがあるものや木目が粗い もの等、家具材に不向きな材も多い。本研究では、 針葉樹材が持つ欠点を補う家具装飾方法を見出し、 イスへの応用を図った。今回は、シート状木材料で ある単板および木紙による家具装飾法を考案し、4 脚のイスを制作した。Nami-Nami は染色したヒノキ のスライスド単板に波形の曲げ加工を施した装飾材 を座面に嵌めたスツールで、脚はテーパー加工を施 し、軽やかなデザインとした。Tsugi-Hagi は染色し た木紙をパッチワークした装飾材を座から背にかけ て配した小椅子である。3本の脚の中心には染色し、 積層したスライスド単板を挟んだ。Ori-Hida はグラ デーションに染色をした木紙を折り、橙色の糸で縫 い加工を施した装飾材を背の表裏にあしらったハイ バックチェアである。Kiri-Hari は3本の脚に染色 した木紙をアップリケの要領でカラフルに施したス ツールである。











教育機関:多摩美術大学大学院 研究室:美術研究科染織文化特殊研究

指導教員:深津 裕子

教育成果:「テキスタイル&ファッションの伝統Xイノ

ベーション」デザインプロジェクト

タイトル:T-Watch -Time-Tradition-Textile-

学生氏名:内藤仁緒子・YU Qi・LYU Yin・CHEN Meiyu・ LI Shua・鶴田裕哉・Terugele・諾敏・山口美衣奈・LIN Yi・ LIU Jingyu・光田安寿・GUO Jiaao・阿部香織・LI Tong・

WANG Shihui · SHAVERTS Roni · XU Xiaoquan ·

NIE Yahui・CHEN Haoqi・LIU Huanzi・TSENG Chihao・CAO Jiace・Fan Ruihong・WANG Yang・ZHU Minjia・CABRERA Yonlay・ZHANG Shuyu(大学院 1・2年)

世界の染織文化と服飾研究を基盤に,新しい伝統を創出し発信したデザインプロジェクト.参加者の専攻はファインアートからデザインまで多岐に渡り総合的なデザインチームが形成された.中国・日本・アメリカ・ヨーロッパの伝統的な民族衣装や文様からインスピレーションを受け、現代人の時を刻む時計ストラップのデザインを軸としたブランディングを行った.デザインワークはロゴマーク・パッケージ・メッセージカード・ポスター・ディスプレイ等のデザインを分担し,制作記録を元にしたショートムービーを含む総合的なデザインをプロデュースし,大学内ギャラリーで展示発表した.



教育機関:千葉大学

研究室:コミュニケーションデザイン研究室

指導教員:桐谷佳惠、張益準

教育成果:卒業研究

タイトル: 鮫個紋ジェネレーター 学生氏名: 露﨑れな (学部 4 年)

本研究は、サメをモチーフにした個紋ジェネレーターの提案を通じ、紋作成及び個紋作成サービス成立の要素を考察したものである。

本制作で提案するジェネレーターは、既存のサービスと異なり、完成した紋が自分のものであるという納得感を与えることを目指した。そのためモチーフ選択に際し、1)犬猫など好みが分かれない、2)一般に知られている、3)ありきたりではない、の条件を設定し、これらをクリアしたサメをモチーフとした。さらに、紋の瑞祥的意義、尚武的意義、肖り的意義に着目して、質問を設定した。それにより、作られた紋を見たとき、作成者が「自分のものである」と実感できることを目指した。

サメを紋らしく作画するには、以下の点が重要であることがわかった。1)面,対称性,曲線での表現,2)細部の簡略化,3)対象の特徴的向きと紋構成の対応。

ジェネレーターでは、個人の人生観等を問い、それを、サメの生態からポジティブな「あやかり」と対応させた。使用後の調査では、66%が提示された紋が自分のものと納得したと回答した。



教育機関:帝塚山大学 現代生活学部

研究室:居住空間デザイン学科 建築計画研究室

指導教員:小菅 瑠香

教育成果: 2019 年度卒業設計

タイトル:憩い場 一滞在型図書館の設計提案-

学生氏名:安田昌広(学部4年)

現代の日本人の読書離れという問題に対して、レクリエーションといった目的も含めて、都市公園の向かいに「足を運びたくなる」「長時間滞在したくなる」新しいタイプの図書館の設計を行った。

図書館・書店カフェ・学習施設・貸会議室の4つの機能をあわせた本施設では、利用者にあった読書スタイルで本が読めるよう、「飲食しながら」「わいわい」「芝生で」「段差で」「静かな場所で」「落ち着く狭さで」「ゆったり寝転んで」「ハンモックで」の8つの空間を提案している。

そのための仕掛けとして、建築構造上発生する柱を本棚で囲んでキャットウォークで繋いだ「本の柱」や、本を屋外に持ち出して読書を楽しめる「大人芝生」、児童が段差を利用して遊びながら本を読める「子ども階段」など、様々な年齢層の利用者にあわせた滞在型の読書エリアを充実させた。

制作当初に設定した「滞在型」というキーワードに対して徹底的にその方法を考え、敷地の前にある公園の延長として「公園性」を持つ施設を、オリジナリティあふれるカタチで表現した点において高く評価している。



教育機関:東海大学

研究室:教養学部芸術学科

指導教員:富田誠

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:患者の意思決定を支援する「俯瞰型」リーフ

レットの制作

学生氏名:仙田真郷(学部4年)

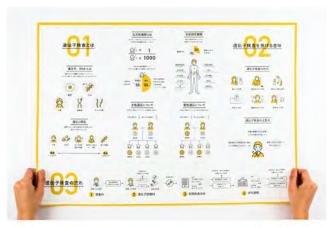
医療機関において、患者は自身が受ける治療や検査の内容を医師からの説明だけで十分に理解することは難しく、曖昧な理解のまま治療や検査などに同意することが多いのではないだろうか。

そこで本研究は、東海大学医学部付属病院と協力し、本学の遺伝子診療科において行われている検査説明で使用されている資料をリデザインし、Imap(アイマップ)を製作した。

Imap には、患者が検査内容を深く理解し、能動的 に意思決定をできることを目的に、検査の流れやメリット、注意点等の説明が、1 ページにグラフィカルに示されている。

そのため医師と患者はイラストを指し示し、相互に補足説明やメモを書き込みながら理解を深める。 患者は Imap を持ち帰り、帰宅後家族に正しく医師の情報を共有することができる。

このようなデザインにより、医師と患者間の相互 的な理解が構築され、医療の安全に寄与するものと 考える。







教育機関:東京学芸大学

研究室:環境・プロダクト デザイン研究室

指導教員:鉃矢 悦朗

教育成果:新規採用の教師を元気づけるための新たなデ

ザインの提案と実践

タイトル:今日善くラジオ(きょういくらじお)

学生氏名: 宮原光(学部4年)

「辛い 苦しい 辞めたい」という新規採用の先生方の声を多く耳にするようになった。そんな先生方に何かできないか、様々な与条件を精査しデザインしたのが「今日善くラジオ」である。学校の改善などは、すぐに行うことは困難であるが、ラジオを通して、先生方の気持ちを少しでも楽にすることは可能であると考えた。

11月から計50回、約10分間の内容を企画・収録し、平日毎朝6時45分からYouTubeにて配信を行った。内容は、教員養成大学で培ったノウハウを活かしながら教育関係者へのインタビューや教師から届いた不満を代わりに吐き出したり、朝に心がワクワクするメッセージを伝えた。再生回数は回を追うごとに増加し、延べ1874回。この「今日善くラジオ」で、通勤の合間にくすっと笑える機会や教育情報の提供、面白がることの楽しさ、大切さを体現できたように思う。教師の方々にぜひ聴いてもらいたい。そして、"より善い"一日を送れることを強く願う。

—— 先生方と子どもたちの今日がも一っと Happy になりますように ——



教育機関:東洋英和女学院大学国際社会学部国際社会学科

指導教員:町田小織

教育成果:2019 年度学内活性化プロジェクト採択案件タイトル:マイプラ(① my plastic:miku&yurika ②マイクロプラスチック③ my \rightarrow our \land :まずジブンゴト、さらにジブンタチゴトへという願い)

学生氏名:片山 友理香・金子 未空(学部3年)

これは教育成果ではなく、学生自身の学びの成果である。教員はマラソンのペースメーカーのような存在で、最初だけ伴走し、学生たちが向かうべき場所へ連れて行ったり、風よけになったりしたに過ぎない。

マイプラは本学3年生(2019年度当時)2名が大学へ申請して開始した、学生発案型プロジェクトである。「環境問題に対する学生の意識を変えたい」「世界を変えるにはまず学内から」と考えたふたりは、身近な問題として、学内のレジ袋を削減するにはどうしたらいいかを思案。お店の人にも、購買者にも負荷がかからず、お金もかけずに、誰もが明日からでも取り組める方法はないか、現場で観察をした。試行錯誤の末、レジ台に2種類のシートを貼り、お客様が何も言わなくても「袋不要」の意思表示ができる仕組みを考案し、実践。約1ヶ月間の広報・協力要請のキャンペーンを実施したところ、約18%のレジ袋削減に成功した。

この活動は地元メディアに採り上げられ、さらに その記事が外務省地球環境課の公式 twitter にシェア されるなど、学外でも話題となった。

キャンペーンの提案

商品を置く位置によって袋の有無が分かる

【方法】

➡レジ台に2枚のシートを貼る

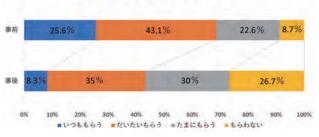


袋が欲しい→右側の赤いシート

- ・時間帯 (繁忙期) 12:10~12:20
- ・レジ横で計測(カウンター使用)



学内のコンビニで普段レジ袋をもらうか



教育機関:日本大学芸術学部デザイン学科研究室:コミュニケーションデザイン分野 指導教員:佐藤 徹、布目 幹人(非会員)

教育成果:2019年度卒業研究 タイトル:令和問答八十八次 学生氏名:久保田優海(学部4年)

いつの時代も「若者ことば」は、違う世代の大人 達にとってはあまり良いイメージを与えないもので ある。同世代のコミュニティー内でしか通じない言 葉は、はたから見れば異国の言葉とも感じられる。 しかし、その言葉もまた日本語であり、この国の言 葉は昔から「新語」や「流行語」が蓄積され今に至っ ているのである。

今の「若者ことば」にあまり良いイメージを持たない大人達もかつて若かりし頃にはその異国の言葉を生み出し使用していた。つまり問題は新しい日本語を使用することではなく、異国の言葉のように「通じない」ことなのではないか?

通じなければコミュニケーションは取れず、言語の意味すらなくなってしまうわけだが、この国の歴史にはその通じなさすらビジュアルで遊んでしまう文化がある。

江戸時代の人々が楽しんでいた、「判じ絵」で「若者ことば」を表すことで、「若者ことば」の文化性を訴えた。



教育機関:梅花女子大学文化表現学部情報メディア学科

研究室:ゲーム・デザインコース

指導教員:西川 良子

教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:大阪メトロのためのビジュアル制作

~訪日観光客を対象とした各駅のシンボルマークの作成~

学生氏名:東奈津樹(学部4年)

近年、少子高齢化や沿線の空き家問題によって、 鉄道の輸送人員減少が問題視されている。一方、訪 日外国人は年々増加傾向にあり、2017年は国内流 動量が年間 5000万人に達した。訪日外国人が利用 する交通機関の割合は、鉄道が半数以上であること を鑑みても、鉄道事業の経営を安定させるために訪 日外国人を視野に入れた対策を行うことが重要であ る。

本研究では、視覚的アプローチとして、大阪メトロ各駅のシンボルマークと、外国人でも判別しやすい駅名標や路線図、その他、地域の特徴や名所を記したポートフォリオを制作した。シンボルマークは地域性を生かしたアイコンとなり、現在地を把握する目印となり得る。また、シンボルマークを様々な掲示物に使用することで視認性を高めることも可能となるだろう。しかしながら、シンボルマークだけで地域の詳細を伝えるには不十分であるため、さらなる媒体やツールの展開案の必要性を示唆した。慣れ親しむ大阪メトロの今後の発展を願う。







教育機関:明星大学 デザイン学部 デザイン学科

研究室:感性デザイン学研究室

指導教員:吉岡 聖美

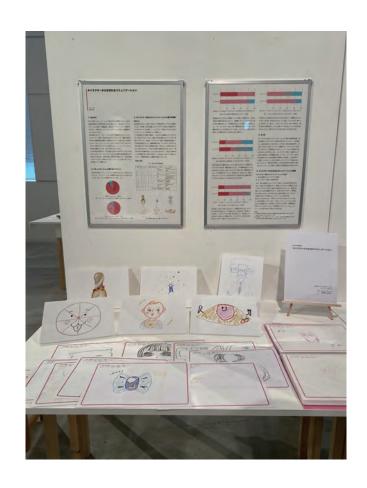
教育成果: 2019 年度卒業研究

タイトル:自分を投影したキャラクター描画によるコ

ミュニケーションの生成

学生氏名:古澤吉恵(学部4年)

若者のコミュニケーション能力の低下が課題とな る中, コミュニケーションアプリ LINE で使用される キャラクターを使ったスタンプがコミュニケーショ ンツールとして有効に機能している。本研究では、 既存のキャラクターではなく、自分を投影して描画 したキャラクターを用いることでコミュニケーショ ンの生成が促進されるのではないかと考え, 初対面 同士の大学生に対して、自分を投影したキャラクター を用いる実験協力者のペアと用いない実験協力者の ペアにおけるコミュニケーションに関する実験を 行った。その結果、自分を投影したキャラクターを 用いた実験協力者は、初対面の人にも自分自身のこ とを伝えることができ、相手に興味を持ち、また話 してみたいと感じていることを確認した。一方,キャ ラクターを用いない実験協力者は, 卒業研究や授業 など一般的な話題に止まり, 自分自身のことを話し ていなかった。自分を投影して描画したキャラクター を用いることで、「素の自分を開示して自分を表現で きるコミュニケーション能力」を補助する効果が期 待できる。



教育機関:横浜美術大学美術学部 美術・デザイン学科

研究室:プロダクトデザイン専攻

指導教員: 辻康介、山路康文(非会員)

教育成果:2019 年度卒業制作 タイトル:「マグネットシティ」 学生氏名:前田 隼汰(学部4年)

ストレスを抱える多くの都市生活者にとって、その癒しになるものは何か?彼はミニチュアを見る時に感じる「空想」「想像」の世界にその答えを見出しました。都市生活者の多くが住む狭小居住空間でも「ミニチュアジオラマ」の世界に容易に没入できる為に壁面を選びました。その選択は人に「鳥の俯瞰視点」を与え、より空想世界に誘う効果をもたらします。 屏風構造は平面的な壁面に丘陵地の様な奥行きを加えています。

長年の彼の趣味である散歩で観察した街の移り変わりや息遣い(生命感)を、昭和>令和>持続可能な未来という3つの時間軸で表現し単なる風景描写のジオラマでは無い世界観を具体化しました。この提案で「空想」と「想像力」を取り戻した都市生活者は、付属のキットを用いて自分の描く理想の都市ジオラマを増幅させることができます。拡張性をも持たせたこの一連の考察過程と成果は、合理的社会で生きる現代人の抱える課題を人間的かつ情緒的に解決する提案として高く評価します。







日本デザイン学会 企画委員会 支部企画 教育成果集 2019

編集 平松早苗(第2支部支部長)、工藤芳彰(副支部長)、森山貴之(幹事)

デザイン 森山貴之(横浜美術大学)

発行日 2020年9月

本部事務局 〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-21-15 ベルフォート西荻 703

TEL 03-3301-9318 FAX 03-3301-9319

支部事務局 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 14-11 日本橋桃林堂ビル5階

(同) ars 設景気付